

令和6年度第2回静岡県公立大学法人評価委員会
(静岡文化芸術大学)

日 時	令和6年8月9日(金) 9時30分から9時45分まで
場 所	県庁別館9階特別第一会議室
出席者 職・氏名	<委員> 櫻井透(委員長)、伊東幸宏(委員長代理)、杉村美紀、牧田 恵 <事務局> 都築スポーツ・文化観光部長、平塚スポーツ・文化観光部 部長代理 縣総合教育局長、本橋大学課長 他

議題1 令和5事業年度の業務実績に関する評価について

議題2 運営費交付金に反映する成果指標の判定について

事務局が資料1～4に基づき説明し、その後質疑を行った。

【質疑・意見の概要】

①大学院の定員充足率について(議題1)

<杉村委員>

- ・定員が減少すれば充足率も変わる。大学院の適性な規模について、前向きに検討してほしい。

【決議】

<櫻井委員長>

- ・議題1、2について、事務局案のとおり承認。
- ・字句等の軽微な修正については、委員長に一任いただく。

→<各委員>

- ・了承

令和6年度第2回静岡県公立大学法人評価委員会
(静岡県立大学)

日 時	令和6年8月9日(金) 9時45分から10時00分まで
場 所	県庁別館9階特別第一会議室
出席者 職・氏名	<委員> 櫻井透(委員長)、伊東幸宏(委員長代理)、杉村美紀、牧田 恵 <事務局> 都築スポーツ・文化観光部長、平塚スポーツ・文化観光部 部長代理 縣総合教育局長、本橋大学課長 他

議題3 令和5事業年度の業務実績に関する評価について

議題4 運営費交付金に反映する成果指標の判定について

事務局が資料5～8に基づき説明し、その後質疑を行った。

【質疑・意見の概要】

意見・質問は特になし

【決議】

<櫻井委員長>

- ・議題3、4について、事務局案のとおり承認。
- ・字句等の軽微な修正については、委員長に御一任いただく。

→<各委員>

- ・了承

令和6年度第2回静岡県公立大学法人評価委員会
(静岡県立大学中期目標)

日 時	令和6年8月9日(金) 10時05分から10時55分まで
場 所	県庁別館9階特別第一会議室
出席者 職・氏名	<委員> 櫻井透(委員長)、伊東幸宏(委員長代理)、杉村美紀、牧田 恵 <事務局> 都築スポーツ・文化観光部長、平塚スポーツ・文化観光部 部長代理 縣総合教育局長、本橋大学課長

議題5 静岡県公立大学法人第4期中期目標の(案)について

事務局が資料9～11に基づき説明し、その後質疑を行った。

【質疑・意見の概要】

<牧田委員>

- ・前文の「知と人材の集積拠点」という文言について、「人材」の捉え方で内容が変わってくるのではないかと。その前後に「デジタル化」、「well-beingの高い社会」、「グローバル社会で活躍できる人材の育成」等と記載されているが、「人材」の捉え方次第ではこれらに繋がらないため、言葉の整理が必要。
- ・第5.4の「ダイバーシティ」という言葉は、教育関係を考えるに当たってキーワードとなるのではないかと。中等教育に携わっていた頃、海外からのホームステイをクラスで受け入れた際に、生徒が生き生きとしていたのが印象的だった。

<杉村委員>

- ・前文の「集積拠点」という文言について、ただ個を集めて拠点を作るという印象を受ける。「知の創成」「人材の育成」等、未来志向の言葉が入るとよい。
- ・文部科学省の「教育振興基本計画」「中央教育審議会(大学分科会・高等教育の在り方に関する

る検討部会)」も参考にするとよい。先の「ダイバーシティ」等の文言も使用されている。

- ・せっかく静岡県立大学としての目標を作るのならば、ぜひ地域の特色ある大学作りを強く打ち出してほしい。例えば、静岡県は多文化共生を実践するには最高の条件が整っている。実践できれば、学外への大きなアピールになる。

<伊東委員>

- ・前文の「知と人材の集積拠点」という文言について、「人材」が大学に集積されるとすると、世界中から優秀な研究者・教育者を集めてくるという意味で捉えられる。一方で、二行下に「人材の育成」とあるが、この「人材」は大学で育てる学生を意味している。同じ文章で、異なる意味の「人材」が使われると分かりにくい。
- ・前回の委員会において、民間企業には監査室が設置されているという話があった。一方で、静岡県立大学は非常勤の監事を設けているが、月1回会議に参加する程度と聞いている。中期目標に含める話ではないかもしれないが、学長と理事長が一体化した中で、ガバナンスの在り方に検討の余地があると感じている。

<櫻井委員長>

- ・中期目標（案）にもガバナンス強化に関する文言がある。具体的な話になると、外部委員や学外理事からの意見の尊重等が考えられるが、月1回程度の会議への参加程度に留まると思われる。公立大学法人の規程に則って対応していることは理解しているが、常勤でなければ十分な内部情報を得ることが難しいと考えられる。運用面で工夫することはできないのか。
- ・事務局として、運用の方法について現状把握すべき。次回の委員会で報告を求める。

→<本橋大学課長>

- ・非常勤の監事や監査法人がおり、理事長との意見交換の場があることは把握しているが、実際の運用面は法人に任せている。
- ・組織体制の是非については、他の公立大学法人にも影響するためこの場で申し上げることはできないが、学外者からの意見を反映しているのかという点から確認したい。

<杉村委員>

- ・私立大学では、理事長と学長の兼務は大学により様々だが、監査については、定期的な実施されている。
- ・認証評価とは別に、内部質保証として、外部評価委員会を自主的に行っている。
- ・監査とは違うが、企業との人事交流も行っている。

<牧田委員>

- ・直接関わっている訳ではないが、所属する私立大学では、外部評価を頻繁にやっている印象。県内企業を中心に、銀行・メーカー・放送関係など、様々な業界から委員が参加している。
- ・監査とは異なるが、経営面では中途採用が多数派であり、実務レベルでも人材の多様化が進んでいる印象を受けている。

<伊東委員>

- ・外部評価には二種類。一つは大学が委員を依頼する。もう一つは他機関が実施する。
- ・大学が依頼するものは、外部評価とはいっても、実質は内部評価のためのワンステップ。その外部評価の結果を踏まえて内部評価を行い、その結果について学位授与機構等の準公的機関で評価を受けるという手順。

<櫻井委員長>

- ・中途採用や外部の意見というのは、ダイバーシティそのものと言える。教育だけでなく、大学の運営についてもダイバーシティが重要。
- ・次回までに、委員の方々の意見に対する事務局として案を提示していただきたい。